



共同プレスリリース：

国連ハビタットのイエメンにおける緊急避難所設備と住居再建事業に  
日本から 800,000 ドルの支援



戦闘により住む家を失った、イエメン・フダイダの住民たち。国連ハビタット イエメン事務所は、日本の支援によるプロジェクトで緊急避難所を提供する（国連ハビタット/2019）

フダイダ、イエメン：2019年2月

国連ハビタット イエメン事務所が実施する、戦闘から逃れてきた避難民に対する緊急避難所の提供と、最も脆弱な立場にある住民の損壊した家屋の修復に対し、日本は 800,000 ドルを支援することを決定しました。このプロジェクトは、イエメン西部のフダイダ県で、戦闘の影響下にある地域の住民と国内避難民の計 310 世帯を対象に実施されます。

イエメンで続く戦闘の被害は大きく、支援を必要とするひとは、住む場所を追われた国内避難民 200 万人を含む 2200 万人にのぼります。県の主要都市であるフダイダ市は重要な港湾都市であるために、戦闘の標的となってきました。ここでは 47,000 世帯が避難民として登録され、そのうちの多

くは使われていない古い校舎や政府の建物に身を寄せています。衛生環境が整わず、清潔な水が不足している中、コレラの流行の再発が心配されます。

自分の家にとどまっている人々の住居も戦闘による損壊が激しく、都市の生活環境は整っておらず、多くの地域では電気も水も不足しています。

この事業では、多くの避難民が居住する Al-Khawakhah、Al-Garrahi、Al-Hali 地域の国内避難民世帯を対象に、清潔な水と衛生施設を提供します。脆弱な世帯が身を寄せている壊れかけた危険な建物は、環境にやさしく経済的な建設物資を使用した新しい建物に交換される予定です。

このプロジェクトは1,200人の女性に裨益し、一日1,600人に労働の機会を提供する予定です。

お問い合わせ先：

ワエル・アルアシャーブ 国連ハビタットイエメン事務所長

電話: +962795702394 Email: wael.alashhab@un.org

(日本語) 松本 夏季 国連ハビタットスーダン事務所広報担当

Email: natsuki.matsumoto@un.org